

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

| | | | | | | | | | | |
|----------------------|-------------------------------|--|--|----------------------|----------|--|--|--|----|--|
| 事業番号 | | 11 07 07 | 中期総合計画主要施策番号 | | 5 - 07 | 担当課 | 部・課 | 建設部都市計画課 | | |
| 事業名 | | 松本都市圏総合都市交通体系調査 | | | | | 内線 | 3358 | | |
| | | | | | | | E-mail | toshikei@pref.nagano.jp | | |
| 事業の概要等 | 事業の目的 | 公共交通機関の利用者減少や市街地の外延化といった都市圏の抱える課題の解決に向け、松本都市圏の道路網の検討や公共交通活用の検討を行い、総合的な交通計画を策定する。 | | | | | | | | |
| | 事業の必要性 | 【現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)】 ・慢性的な渋滞を解消するために効果的な道路整備が必要であるが、社会経済情勢等により道路整備が進まず、また、交通量も依然増加傾向にある。 ・公共交通は自動車を運転できない人にとっては生活に欠かせない足であり、その維持、存続が必要であるが、利用者は減少傾向にある。 【原因分析(ギャップが発生している原因は何か)】 ・市町村合併や郊外への大規模店舗立地等に伴い生活圏の広域化が進んでいる。 ・自動車への高い依存度により交通量が増加し、公共交通利用が低下している。 ・土地利用規制の緩い郊外の都市化の進展に伴い、自動車への依存がさらに増加している。 【課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)】 ・慢性的な渋滞の解消、公共交通の維持・存続、都市の郊外化の抑制に向けての基礎資料とするため、都市圏の交通体系の調査を行う必要がある。 | | | | | | | | |
| | | 事業内容 | ・都市交通計画を策定するための基礎調査を実施。【国1/3 県1/3 市町村1/3】 | | | | | | | |
| | | 実施期間 | H20 ~ H22 | 根拠法令等 | 都市計画法第6条 | | | | | |
| | 成果と達成状況 | 事業の目指す成果 | | 達成度(期待どおり)の判定基準(H20) | | | 達成状況 | | 評価 | |
| | 松本都市交通計画を策定し、交通における課題の解消に資する。 | | 都市交通計画策定の基礎資料となる松本都市圏でのパーソントリップ調査を実施する。 | | | パーソントリップ調査を行い、都市交通計画策定に必要な回収サンプル数76,739トリップ/日(12,881世帯票)を得ることができた。 | | a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下 | | |
| 事業コスト | 区 分 | | 単位 | 19年度 | 20年度 | 21年度(当初) | 20年度の概要 | | | |
| | 最終予算額 (A) | | 千円 | | 21,000 | 42,000 | 国庫・県単 | 国庫・県単 | | |
| | 決 算 額 (B) | | 千円 | | 9,870 | | 実施方法 | 委託 | | |
| | B(H21はA)のうち一般財源 | | 千円 | | 3,290 | 14,000 | 歳出節別内訳等 | 委託料: 9,870 (単位: 千円) | | |
| | 概 算 人件費 | 従事する職員数 | 人 | | 1.00 | 1.00 | | | | |
| | 概算人件費 (C) | | 千円 | | 7,149 | 7,149 | | | | |
| 概算事業費 (B(H21はA) + C) | | 千円 | | 17,019 | 49,149 | | | | | |
| 事業実績 | 内 容 | | 単位 | 19年度 | 20年度 | 21年度(予定) | 左記以外の20年度の実績 | | | |
| | パーソントリップ調査 | | 式 | | 1 | | パーソントリップ調査を行い、都市交通計画策定に必要な調査結果を得ることができた。 | | | |
| | 拡大集計・現況分析・将来需要予測 | | 式 | | | 1 | | | | |
| 事業の課題 | 区 分 | | 判 定 ・ 説 明 | | | | | | | |
| | 事業のニーズの変化 | | 増加 | 横ばい | 減少 | 判定の説明 | ・定期的に都市の交通利用を調査する必要があるため、事業のニーズは高い。 ・複数の市町村に渡るため県が主体的に行っている調査である。 ・調査にあたっては、既存資料や市町村との協力のもと、有効的、効率的に進めている。 | | | |
| | 県の関与を見直す余地 | | 余地なし | 当面余地なし | 余地あり | | | | | |
| | 有効性を高める余地 | | 余地なし | 当面余地なし | 余地あり | | | | | |
| | 効率性を高める余地 | | 余地なし | 当面余地なし | 余地あり | | | | | |
| | 課題の総括 | | ・松本都市交通計画の策定は、松本都市圏の道路網の検討や公共交通活用の検討に必要性は高く、平成23年度までに計画的に調査を行う必要がある。 | | | | | | | |